来所報告書

年　　月　　日

注１：下ページの**記入例を参考の上**、来所ごとにご記入ください。学内利用の方は、１ヶ月単位でまとめてご記入ください。

注２：記入後、受入担当者へ提出してください。メール添付等、電子媒体でご提出ください。

|  |
| --- |
| 氏名（所属・職 or 学年） |
| E-mailアドレス： |
| PRIUS課題番号： |
| 旅費支援の有無： |
| 来所期間： |
| 受入担当者名： |
| 使用装置：次貢のリストを参考に装置番号と装置名を選び、使用日数・時間（使用ノートに記入した時間を時単位で．「分」は切上げで1時間とする）、および使用者の延べ人数（人数×日数，例．1人×5日＝5人）を記載してください。 |
| 来所の目的・実験内容（簡潔で結構です）：  来所に関する要望等（任意）： |

注）受入担当者はこの報告書を受取・チェック後、拠点事務室へ提出（電子ファイルをメールで添付）してください。

1) 超高圧装置群（超高圧実験装置と関連装置）

(1) マルチアンビル超高圧発生装置 Orange-1000

(2) マルチアンビル超高圧発生装置 Orange-2000

(3) マルチアンビル超高圧発生装置 Orange-3000

(4) マルチアンビル超高圧発生装置 Botchan-6000

(5) D-DIA型超高圧変形装置 Madonna I

(6) DIA型焼結ダイヤモンドアンビル超高圧装置 Madonna II

(7) ダイヤモンドアンビル装置 DAC

(8a) DAC用レーザー加熱システム Fiber laser

(8b) DAC用レーザー加熱システム CO2 laser

(9) マルチアンビル装置用高圧下弾性波速度測定装置 Ultrasonic (TDS5104)

2) 微小試料分析装置（電子顕微鏡および関連装置とX線・その他分光装置）

(10a) 走査型電子顕微鏡(電界放出型) FE-SEM-EDS　(JSM-7000F)

(10b) 走査型電子顕微鏡(電界放出型) FE-SEM-EBSD　(JSM-7000F)

(11) 走査型電子顕微鏡(熱電子銃型) SEM-EDS (JSM-6510LV)

(12) 走査型電子顕微鏡(熱電子銃型) SEM-EDS (JSR-1000)

(13) 透過型電子顕微鏡(電界放出型) FE-TEM (JEM-2100F)

(14) 分析透過型電子顕微鏡(熱電子銃型) ATEM (JEM-2010)

(15) デュアルビーム加工装置 Dual Beam FIB (Scios)

(16) 集束イオンビーム加工装置 FIB (JEM-9310FIB)

(17) 微小領域X線回折装置 Micro-focus XRD (RAPIDII-V/DW)

(18) 試料水平型多目的粉末Ｘ線回折装置 Powder XRD (UltimaIV/DD)

(19) 顕微ラマン分光装置①② Raman (NRS-5100gr, RSM 800)

(20) 顕微赤外分光装置 FT-IR (Spectrum One)

(21) 紫外可視近赤外分光システム UV-Vis-NIR (V-670)

3) 加工装置・その他の特徴ある装置

(22) 超音波加工機 (UM-150CS)

(23) 高温雰囲気炉①② 大型炉 (ATCM50-100/1700), 小型炉 (TS-4B06)

(24) マイクロビッカース高度計 (HMV-G21DT)

4)　数値計算用コード

(25) 鉱物物性シミュレーションコード

(26) 数値流体シミュレーションコード

(27) その他（具体的に装置名等を明記してください）

記入例）　　　　　　　来所報告書

2014年　6月　1日

注１：下ページの**記入例を参考の上**、来所ごとにご記入ください。学内利用の方は、１ヶ月単位でまとめてご記入ください。

注２：記入後、受入担当者へ提出してください。メール添付等、電子媒体でご提出ください。

|  |
| --- |
| 氏名（所属・職 or 学年）  松山 太郎（東京大学理学部・教授）  愛媛 花子（京都大学理学部・D2） 　　←来所者全員の氏名・所属を記入 |
| E-mailアドレス：matsuyama@...　　←代表者分のみ記入 |
| PRIUS課題番号：2014A01　　　←PRIUS（共同利用）課題の場合のみ記入 |
| 旅費支援の有無：有 or 無 |
| 来所期間：2014年5月20日～5月24日 |
| 受入担当者名： 入舩 徹男　　　←GRC内の担当スタッフ名を記入 |
| 使用装置：次貢のリストを参考に装置番号と装置名を選び、使用日数・時間（使用ノートに記入した時間を時単位で．「分」は切上げで1時間とする）、および使用者の延べ人数（人数×日数，例．1人×5日＝5人）を記載してください。。  （2）超高圧発生装置（Orange-2000）、2日、24時間、 [4人（2人×2日）]  （11）走査型電子顕微鏡SEM-EDS、1日、 2時間、 [2人]  （17）微小領域X線回折装置、1日、 5時間、 [ 2人] |
| 来所の目的・実験内容（簡潔で結構です）：  Mg2SiO4カンラン石を出発物質に用いて、その高圧相wadsleyiteの合成を15 GPa、 1200℃の条件で行った。試料回収後、微小領域X線回折、及び電子顕微鏡で相の同定を行い、完全に相転移したことを確認した。この試料は今後、弾性波速度測定実験に使用する予定である。  来所に関する要望等（任意）： |

　注）受入担当者はこの報告書を受取・チェック後、拠点事務室へ提出（電子ファイルをメー　　ルで添付）してください。